

# 棚田に吹く風

2015  
冬  
Winter  
季刊

## 2 特集

### エコプロダクツ2014

出展レポート

## 5

フォトエッセイ

光と風の中で

## 6

棚田・里山からのたより

“天空の隠れ里” 檜谷棚田を守るために  
愛媛県大洲市戒川地区

## 8

ヨネちゃんの ニッポン全国  
棚田オーナー制度紹介  
棚田⇄温泉案内所

## 9

棚田博士は今日も行く  
三浦半島にある棚田  
神奈川県葉山町上山口

## 12 会員のひろば

## 14 棚田ネットワークの かつどうノート

スタッフのつぶやき

## 15 Project Report





日本最大級の環境展示会  
**エコプロダクツ2014**  
 12/11 thu~13 sat  
 出展レポート

テーマ

# 棚田へおいでよ!

ようこそ！棚田の世界へ

毎年12月に、東京ビッグサイトの6つの東ホールを借り切って行われる「エコプロダクツ展」(日経新聞社等主催)。700を超える企業・団体、自治体、教育機関などが出展する、国内最大級の環境展示会です。この展示会に初めて、全国棚田(千枚田)連絡協議会が各地の棚田保全団体をとりまとめる形で出展しました。

第4ホールから第5ホールにまたがるNPO・NGOコーナー、その一画を占める12の地域と棚田連絡協議会・棚田ネットワークの計14団体。棚田の景観を同じ形の幟旗にして統一感を出しつつも、地域色もあふれるブースは、連日たくさんの人で賑わいました。

## 参加団体

- ↓ 四ヶ村美しい農村再生支援事業運営委員会 (山形県大蔵村)
- ↓ 佐渡棚田協議会(新潟県佐渡市)
- ↓ 大山千枚田保存会(千葉県鴨川市)
- ↓ 星峠農産(新潟県十日町市)
- ↓ 石部地区棚田保全推進委員会(静岡県松崎町)
- ↓ 恵那市坂折棚田保存会(岐阜県恵那市)
- ↓ 小谷村田んぼオーナー推進会議(長野県小谷村)
- ↓ 白米千枚田愛耕会(石川県輪島市)
- ↓ しみず地域観光活性化協議会(和歌山県有田川町)
- ↓ 英田上山棚田団(岡山県美作市)
- ↓ 東後畑営農組合(山口県長門市)
- ↓ 浜野浦棚田保全組合(佐賀県玄海町)
- ↓ 全国棚田(千枚田)連絡協議会
- ↓ 棚田ネットワーク



企画 全国棚田(千枚田)連絡協議会  
 制作 NPO法人 棚田ネットワーク



棚田ネットワークの  
発表は若手中心



全国棚田（千枚田）連絡協議会の  
紹介をする事務局の中谷さん



暖かい房総半島  
鴨川からは水仙の花も



恵那ブースでは  
長老と若手がそろう踏み



出展団体中いちばん南、  
佐賀県玄海町の美人職員さん



前年に出席経験のある佐渡チームは  
ブースの飾り付けやお米の売り方を工夫し  
売り上げ倍増/持参の民芸品は完売!!



11月下旬に発生した長野県神城  
断層地震で被災した小谷村は  
応援団が代行して出展



オレンジ色の集団・英田上山棚田団  
どこへ行ってもパワフルです!



自慢の棚田米(魚沼コシヒカリ)を  
前に。緑の法被が目を引きます



石部棚田のブース。テーブルに  
並んでいるのは棚田米、  
黒米うどん、オリーブ茶など



山形県でいちばん小さな村・大蔵村  
からは「世界一大きな雪だるまの雫」  
(ペットボトル水)も届きました



地元出身の天折の詩人・金子みすず  
さんを紹介する長門市のチーム。  
赤いエプロンで頑張りました



有田川町チームは有田みかんや  
ぶどう山椒を紹介。最終日は和歌山  
大学の学生さんもスタッフとして参加



白米千枚田では、ただいま  
「あぜのきらめき」開催中/  
(3月15日まで)

## ステージイベント



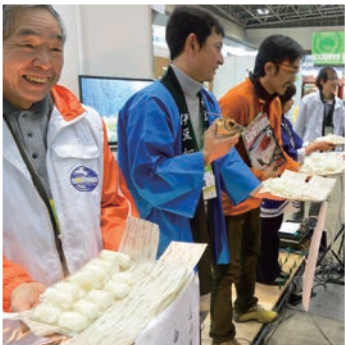
特設のミニステージでは、出展団体が各30分ずつの持ち時間を使い、司会者とやりとりしながらDVDなども利用して地域の魅力を紹介しました。



ステージ出演の持ち時間で「祭り寿司作り体験」を企画した鴨川チーム。興味津々のギャラリ-



玄海町の地域おこしグループ「玄起海」のゆるキャラ『komazouくん』。この日お披露目



## 棚田米めぐり

全12地域の棚田米を、一日に4地域ずつ、同じ条件で炊いて味わってもらう「棚田米味めぐり」。適地適作といいますが、お米の品種もコシヒカリだけではなく、きぬむすめ、フクヒカリ、ミネアサヒ、里のゆき、ひとめぼれ、などさまざまです。集まった人たちは「あ、味が違う!」「こっちは甘みがある!」などと食べ比べをしていました。棚田米はスーパーや普通の米穀店ではなかなか売っていません。棚田米が気軽に入手できるようにすることが、次の課題ですね。

## クイズラリー



12の地域が1問ずつクイズを出題し、その回答を探しながらブースを回ってもらう「クイズラリー」。クイズの中身は例えば「石部棚田から見える山は? ㊶ 阿蘇山 ㊷ 富士山 ㊸ 蔵王山」とか「カエルのことを鴨川の方言で何というでしょう? ㊶ あんで ㊷ たなご ㊸ かえる」などなど。各地から提供していただいた賞品は、お米、蕎麦、携帯ストラップ、絵葉書やキャラクターシールなど約1000点にもなりました。ブースを訪ねてもらった効果も大きかったようです。



## 棚田のあかり

千葉県鴨川市 大山千枚田

2008年春に始まった「棚田のあかり」はその後季節を秋に移して今年も多くの人たちの目を楽しませてくれた。当初からの廃油を利用したエコキャンドルを昨年から約1万個のLEDキャンドルに代えて、10月末のイベント「棚田の夜祭り」から新年5日までのロングランとなった。

LEDの光センサーにより日没から4時間程度発光し、電球色系のゆらぎは全天候型のすぐれもので風雨にも耐え、さまざまなファンタジックなシーンを醸し出してくれた。

気候温暖な千葉県南房総に位置する大山千枚田は、年に数回降る雪も翌日の夕方まで残る事は滅多にない。5年に一度程度の大雪も地球の温暖化にともない、積雪に遭遇するのは至難のわざとなってきた。

折しも今年の元旦に千載一隅のチャンスに恵まれた。所用を済ませ自宅に向かう途中、俄に天候が急変。小雪がちらつき始めた頃には、車は大山千枚田へと方向転換。雪は横なぐりの本降りに変わり、千枚田到着の頃にはあたり一面雪化粧。カメラの準備ももどかし、降りしきる中、小1時間精力的に撮影。一旦帰宅後、LEDキャンドルが瞬き始める頃に再撮影に向かった。この頃になって雪はすっかりやみ、月明かりに照らし出された雪と、煌めくLEDキャンドルとの幻想的なコラボレーションの二度とないであろうチャンスを寒さも忘れて撮影していた。

フォト  
エッセイ  
光と風  
の中で

写真・文  
水田 稔



水田 稔 みずた みのもる

1947年千葉県鴨川市生まれ。報道写真家浜口タシ氏(二科会写真部審査員)に師事。大山千枚田をはじめ、千葉県指定重要無形民俗文化財の北風原羯鼓舞、吉保八幡神社流鏝馬を継続取材中。2010年から、スイスの大自然とヨーロッパの世界遺産を撮影中。2013年から、江戸幕府直轄地・「嶺岡牧」(鴨川市・南房総市)の撮影中。「四季の写真」(学研マーケティング)に大山千枚田の撮り方を特集。写真集「大山千枚田百選」(人類文化社)、写真展「ヴェリスの白き麗峰」(フレームマン・ギンザサロン)他、個展多数。●JPA・日本写真作家協会会員 ●フォトグループ「MEW」代表 ●「水田稔写真塾」主宰

棚田・里山  
からの  
たより



## ”天空の隠れ里“ 檜谷棚田を守るために



上：檜谷棚田の全景／下左：手植えに加えて歩行式田植機も／下右：手刈り・かけ干しの稲刈り

### 檜谷棚田について

幼い頃から利便性の良い生活に慣れきった私にとって、棚田はほとんど縁のない存在でした。そんな私がふとしたことがきっかけで棚田の保全活動に参加することになり、その場所が愛媛県大洲市戒川地区の檜谷棚田でした。檜谷は標高971メートルの壺神山の中腹、標高500メートル程度に位置する集落です。人口十数人の非常に小さな集落ですが、200枚ほどの美しい棚田が広がり、気候条件によっては雲海が発生します。檜谷棚田は日本の棚田百選には選定されておらず、知名度も低いです。檜谷へと続く道も細く険しいためになかなか訪れにくいですが、知る人ぞ知る秘境ということで、わざわざ東京から自転車で見に来られる方もいらっしゃいました。

### 保存会発足・連絡所設立

後継者不足に悩む檜谷では、平成26年4月に地元の人が中心となった保存会が発足しました。また、檜谷外部の人が中心となった「檜谷棚田お手伝い隊」も結成しました。隊員は現在13名。お手伝い隊では地域の方が管理しきれなくなった3アールほどの田んぼ1枚を管理しており、田植えや草刈りなどの作業を行います。さらに、市の補助金を受けて保存会の連絡所と仮設トイレが設置されました。連絡所では見学者が休憩することもできます。

### 収穫祭開催

秋には収穫祭が開催され、戒川地区や市外、愛媛大学の農学系サークルなど、様々な方面から78名もの人が檜谷に集まり、稲刈り体験

愛媛県大洲市戒川地区



上：棚田保存会連絡所も完成／中：約80人が参加した稲刈り・収穫祭／下：オカリナの音色にうっとり

## ■ 棚田へのアクセス

【公共交通】 JR予讃線伊予白滝駅下車。  
バスはない。榎谷まで約9キ  
ロ、徒歩2時間以上。タク  
シー約25分（要予約）

【自動車】 伊予白滝駅から約25分

## ■ お問い合わせ

榎谷棚田保存会  
Tel. 090-2789-1987（城本）  
大洲環境とエネルギー研究会  
Tel. 080-1525-8306（事務局長 大崎）

◎ホームページURL



を行いました。稲は手刈りして稲  
木に掛けます。清水裕大洲市長も  
収穫祭に参加され、稲の手刈りを  
体験されました。また、市長らの  
手で連絡所の除幕式も行われまし  
た。お昼には大洲市の伝統料理で  
あるいもたきが振る舞われ、オカ  
リナコンサートが行われました。オ  
カリナの音色が風景によく馴染み、  
参加者の心を和ませました。収穫  
祭の様子の一部はYouTube  
で視聴できます（「榎谷棚田収穫祭」  
で検索すればヒットします）。保存  
会もホームページを立ち上げ、独自  
に情報を発信しています。さらに、  
収穫されたお米は「壺神米」とい  
う名称で、愛媛大学の学生祭や愛  
媛の棚田写真家・河野豊さんの写

真展で販売されました。その売り  
上げは保存会の活動費用に充てら  
れ、地域の保全に役立ちます。

## これから榎谷棚田

現在、榎谷の平均年齢は70歳を  
超えています。「来年も田んぼが続  
けられるか分からない」という切  
実な声が聞かれます。今後数年の  
うちに地域の方が管理しきれなく  
なる田んぼはもっと増えてくると  
思われます。そうするとお手伝い  
隊だけでは管理することが難しく  
なります。そのため、今後榎谷で  
は若年者を中心とした定住者獲得  
を目指しています。農村の生活に  
慣れている人にとって棚田のある  
風景は当たり前のものかもしれま

せんが、都会で生活している人に  
とってはとても価値のあるものだ  
と思います。収穫祭に参加された  
人の中に鬱病を患う女性の方がい  
らっしゃいましたが、収穫を終え  
て楽しそうに喋っている様子は、  
彼女がそう言わなければ鬱病とは  
わからないほど快活でした。後日  
彼女に偶然出会った人の話による  
と、参加前とはまるで別人のよう  
に明るかったそうです。また、不  
登校気味だった小学生の男の子は、  
収穫祭の翌日から保健室登校をす  
るようになったそうです。現代で  
は都会の生活に疲れ、彼らのよう  
に様々なストレスを受ける人は数  
多くいます。そういった人たちの  
ためにも、棚田がつくりだす心安

らぐ美しい景観は必要なのではない  
でしょうか。棚田は市民全体にとっ  
て価値ある地域遺産だと思います。

私が棚田と関わるようになって約  
半年が経ちました。この半年の間に、  
棚田をめぐる多くの人たちとの出  
会いがあり、地域の問題への意識に  
も変化がありました。榎谷もまた大  
きく変わりつつあります。今後どん  
なことがあり、どんなふうに変わっ  
ていくのでしょうか。それを考える  
と今から楽しみでなりません。

文：榎谷棚田お手伝い隊員 猪口智史  
写真：河野豊



第三回は栃木県茂木町  
から「入郷石畑棚田」を  
紹介するわ。



「日本の棚田百選」にも選  
ばれた入郷石畑棚田。こ  
このオーナー制度は次年  
度で13年目。長く続け  
ている方から新しい方まで、  
毎年60組くらいのオー  
ナーさんが地元の方々と  
一緒に汗を流すの。

田植え、草刈り、稲刈り、脱穀の  
他にも、畔塗りや水切り、おだ  
掛け用のタケ切りまで、色んな  
作業を体験できるわ。

ジャガイモ掘りや餅つきイ  
ベントから、豊かな自然環境で  
しか見られない蛍の観賞会な  
ど、年間を通して里山の自然を  
満喫できるのも特典ヨネ！  
オーナーさんは子供から大人  
まで幅広く、地元の方と共に意  
欲的に活動されているわ。



詳しい内容は、入郷石畑棚田保全  
協議会で発信している「入郷石畑  
の棚田通信」や、オーナーさんも  
協力して発行している「茂木・入郷  
石畑棚田ニュース」をチェックし  
てみてちょうだいね。

<http://www3.tok2.com/home/irigouishihatake>

※棚田オーナー募集地域紹介サイト→ [棚田百貨堂](#) [検索](#)



## ニッポン全国 棚田オーナー制度紹介

第三回

皆さん、ごきげんよう。棚田百貨堂※の聖女キャラクター  
ヨネといします！このコーナーでは、楽しい棚田オーナー制度を  
たくさん紹介していきますので、よろしくお願ひしますわ。



左：市街地を遠望する蔵王山田の棚田／中：蔵王温泉の内湯／右：温泉街

蔵王連峰の西麓、冬季は日本有数のスキー  
場としても賑わう当地にある「蔵王温泉」は、  
実は棚田のメッカである、ということを知った。  
「山形の棚田20選」に選出されている山形  
市の3つの棚田はすべて蔵王にあり、蔵王上  
野、蔵王駒鳴、蔵王山田：と、すべての棚田に  
「蔵王」の名が付くのだ。

そんな棚田だらけの風景を横目に山に登るこ  
と標高880m、到着したのはむせ返るような硫  
黄の香りに包まれ、あちこちに白い湯気が立ち上  
る、これでもかという温泉街。高地にある為、かつ  
ては高湯とも呼ばれた、現・蔵王温泉である。

私が入ったのは宿泊施設の内湯と共同浴場  
の2ヶ所だが、どちらも温度が非常に高いこと  
に驚いた。50度近くはあるんじゃないか。また、  
蔵王温泉の泉質は、強酸性の硫酸。とにかく刺  
激が強いので皮膚病には効くらしいが、アクセ  
サリーなどは必ず外さないとい瞬で黒く腐食  
するので気をつけなければいけない。硫酸の効  
果なのか、湯上り後の肌はしっとりつやや感が  
持続、旅館のぶつさらばうなサービス(笑)も忘  
れるほどのその確かな泉質効果に目を見張つ  
た。湯治客が多いというのもうなずけた。

蔵王といえばスキーや樹氷のイメージで冬、  
となりそうだが、私が訪れた初夏は水の張られ  
た美しい棚田を楽しめるし、夜に浴衣で温泉街  
の共同浴場を回るとに格段寒さを感じないの  
で、実はお薦めの季節だ。

棚田ネットワーク 内田 千鶴

## 棚田↑↓温泉案内所

第四回  
実は魅力的な、初夏の蔵王

全国のベスト・カップルな  
棚田と温泉をご紹介します！

# 棚田博士 は 今日も行く!

中島峰広の  
全国棚田行脚

## 三浦半島にある棚田

神奈川県葉山町上山口



### 電車とバスで行ける棚田

神奈川県葉山町は、三浦半島の北西部、鎌倉・逗子とともに保養地、別荘地といわれ御用邸のある町としても知られている。上山口は、半島のほぼ中央部、標高1505、200以上の丘陵を侵食して東西に流れる下山川沿いにある集落。近年は京浜地区の住宅地になり、混住化が進み農家は一般住宅のなかに埋没している。葉山町に棚田のあることは二、三の人から聞いていたが、丘陵地に多い景観的には劣る谷地田型の棚田であろうと勝手に想像していた。しかし、葉山町在住の棚田学会会員・大串定典さんが、2008年6月発行の学会通信第25号で紹介された写真をみて、傾斜地型の立派な棚田であることを知り、一度は訪ねてみなければと思った。

2012年4月上旬と5月上旬に、連続して葉山町上山口を訪ねた。上山口は新沢、正吟、寺前などを含む大字地名、棚田があるのは字正吟である。東京から横須賀線の電車に乗り、逗子駅で下車。現地へは、朝夕のラッシュ時を除き、30分間隔で運行される衣笠駅行きの京浜急行バスを利用することができる。そのルートは、逗子駅から新逗子駅前を通り、県道311号を南下、桜山隧道を抜けると葉山町に入る。長柄の交差点を直進、道は国道134号にかわり、葉山大道の三叉路を左折して県道27号を東へ進む。滝の坂の峠を越えると下山川の河谷、丘陵斜面が迫り、山里の風景にかわる。川沿いには

河岸段丘が発達、正吟耕地とよばれる段丘面では宅地に混じって畑がみられるようになり、目的地の上山口小学校のバス停に到着する。バス停付近からは、集落の家屋に遮られて棚田を見ることはできない。ファミリーマートの前を通り100メートルほど戻り、手打ちそば「和か菜」の看板がある角を左折すると、正面に杉山神社の鳥居が見えてくる。その神社の背後、かくれるようにして段丘地を限る丘陵斜面に写真の正吟棚田があった。棚田は、傾斜6分の1、標高50〜110メートルの丘陵斜面に拓かれている。面積は2畝弱、64枚ほどの

なかしま みねひろ  
中島 峰広 (棚田博士)

早稲田大学名誉教授。学術博士。NPO法人棚田ネットワーク代表。全国棚田(千枚田)連絡協議会理事、棚田サミット開催地選定委員会委員長。1933年宮崎県生まれ。早稲田大学教育学部歴史科卒。2004年まで早稲田大学教育学部教授。著書に『日本の棚田—保全への取り組み』『百選の棚田を歩く』『続・百選の棚田を歩く』『棚田 その守り人』(以上、古今書院)。現在、百選外の棚田についての執筆準備のため全国行脚中。



上：看板には「入らないで」の文字  
下：畦には藁が載せてある

小さな団地。一枚の面積は、小さいもので0・1<sup>㍓</sup>、大きくても3<sup>㍓</sup>の未整備の棚田。ほぼ2列に並び、下から見上げると30段近くはある。法面は土坡、その高さは0・5<sup>㍓</sup>より土坡の占める面積が広く感じられる。住宅地が迫る市街化調整区域内にあるため、広くはないが、百選の棚田にも劣らない景観である。週末には多くのカメラマンが訪れる撮影スポットになっているそうだ。

## 大串さん宅を訪ねたが

棚田を一渡り見終えてから、大串典典さんを訪ねた。庭先で取り立ての野菜や山菜を販売していた婦人に声をかけると、「定典は義父

ですが、今年の2月に亡くなりました」とのこと。大串さんが折角情報発信し、葉山の棚田を教えて下さったのに、生前にお会いできず申し訳なかったという気持ちで、すぐに言葉が出てこなかった。97歳の大往生だったという婦人の話に救われる思いがした。

かわりに、夫の則義さん72歳を連れてこられた。則義さんによると、父の定典さんは戦前横須賀の海軍工廠、戦後は日産自動車に勤務、このため農作業にはほとんど関与らなかったが、棚田に対する関心は人一倍強かったという。則義さんの母と祖父の3人が田畑を守り、則義さんも子供の頃、近所の牛を持っている農家に耕起を頼むときは鼻取りの手伝いをした

記憶があるそうだ。現在、畑で野菜を栽培しているが、水田は後述する永津さんに作ってもらっているということであった。

## 三戸の農家が棚田を守る

棚田を耕作している農家は3戸、そのうちの2戸、石川栄さんと永津和夫さんに棚田で会うことができた。お二人は昭和一桁世代、小学校の同級生だそうだ。

石川さんは83歳、奥さんが75歳、長男・長女と同居する4人家族。小学校を卒業後、横須賀海軍工廠の見習工になった。戦後は溶接工として造船関連企業に入社、75歳まで勤めながら水田30<sup>㍓</sup>を耕作する兼業農家だった。現在は水田15<sup>㍓</sup>・12枚と自家菜園として利用する畑15<sup>㍓</sup>を耕耘機、步行型2条田植機、バインダーで楽しみながら耕作しているという。55歳の長男が勤めのかたわら農作業を手伝っており、後継者になる覚悟はできているようだ。1960年当時の上山口を撮った写真を見せてもらった。現存する棚田から県道沿いの住宅地をこえ、下山川の河岸まで一面水田で占められており、三浦半島の

穀倉地とでもいえるような風景にびっくりした。当地区は1968年に施行された都市計画法により宅地化が規制される市街化調整区域になっているので、おそらく駆け込みで宅地化が進んだものと思われる。

永津さんは2年前に奥さんを亡くされたが、長男夫婦、孫夫婦、曾孫の4世代が同居する賑やかな家族。小学校を卒業した1941年に田浦の軍需部に入り、倉庫係になった。戦後の5年間は父親が3歳の時に亡くなり、母親・祖母・曾祖母の3代の女性が守ってきた田畑の農作業を手伝った。1950年再びアメリカ軍の基地で製罐工として働き始め、1987年に退職するまで兼業農家として田畑の耕作を夫で行ってきた。退職後は農業に専念、季節に合わせた農作業を生き甲斐にしている風情である。現在、水田自作地の31<sup>㍓</sup>・25枚と小作地の2<sup>㍓</sup>・3枚、ほかに畑20<sup>㍓</sup>を耕耘機2台、步行型1輪2条田植機、バインダーを用い耕作している。耕耘機はガソリン機とディーゼル機の2台で、前者は柔らかい土、後者は力の要る固い



## 2016 第22回全国棚田(千枚田)サミット IN 佐渡 開催に向けて

新潟県佐渡市 佐渡棚田協議会会長 大石 惣一郎

2011年6月に先進国・日本初の国連FAO・ジラス(世界農業遺産)に認定され、にわかに注目を受け始めた佐渡の棚田ですが、世界遺産に比べると知名度の低いジラスです。3年が過ぎた現在でも、佐渡島内での認知度は上がらず、利活用方法の確立も見えないのが現状です。

そんな中で、2013年の有田川・棚田サミットで、離島初の佐渡・棚田サミット開催が決定しました。全国で注目され始めたジラスは、14年新たに国内3地域が登録されました。佐渡・棚田サミットは、ジラス啓蒙活動を含め、日本全国に「農の島・佐渡」を知ってもらえるよい機会と考え、2年前にあたる14年5月にサミット実行委員会を立ち上げました。遠路、日本海の孤島佐渡まで来ていただくのだから、佐渡のベストシーズンに開催したいと考え、緑の里山・棚田と青い空・海を見ていただきたいと思います。7月中旬開催に向けて調整作業を進めています。野に帰ってきた国際保護鳥・トキ、2018年に世界文化遺産登録を目指す佐渡金山、2013年に認定された日本ジオパークと、佐渡は島全体がテーマパークです。それら全てのものを支えてきたのが食であり農だと思えます。佐渡金山のゴールドラッシュで起きた食料不足のために開墾された「小倉千枚田」をはじめ、ジラス登録時にシンボルの棚田として扱われた、私の関わる「岩首昇竜棚田」など、有名無名の多くの棚田が点在する島が佐渡です。



上:岩首棚田の展望台“そらまめ”(そらのまめらか家)／  
右:コンクリートブロックの緑化作業



そんな佐渡ですが、棚田の景観を活用した観光はほとんど行われていませんでした。多くの方々に知ってもらうことが、棚田の維持、保全には欠かすことの出来ない活動と考えます。何とか棚田を観光資源として売り出せないかと考え、佐渡市、佐渡観光協会等と連携して、昨年から「岩首昇竜棚田散策」を開始しました。交通費等の問題もあり、まだまだ少人数の参加者ですが、確実に佐渡棚田に対する理解者が増えていると手応えを感じています。サミット開催や棚田散策に向けて棚田景観の整備も少しずつですが進んでいます。1年半後にどこまで整備出来るかは疑問ですが、数年前までは棚田に対して無関心に近い地域が、ジラス登録という大きな後押しがあったにしろ、全国棚田サミットを開催するまでになりました。皆さん「あきらめてはならないことがある、失ってはならないものがある」の気持ちで頑張りましょう! 2016年、緑の棚田と青い空・海の佐渡島でお会いしましょう。

※佐渡棚田協議会HP <http://sadotanada.com>

会  
員  
の  
ひ  
ろ  
ば



会員の声募集!

「こんな活動をしています」「こんなことやります」という皆さんの声を編集部までお寄せください! (ご要望、感想やご質問でもOK!) (会員の声800字まで、会員レポート400字まで。写真も添えて) 〒160-0023 東京都新宿区西新宿7-18-16 トーシンハイム704号「棚田に吹く風 会員のひろば」宛 メールでも受け付けています ↓ [hiroba@tanada.or.jp](mailto:hiroba@tanada.or.jp)



会員さんの  
Best Shot!

### 会員のみなさんの ベストショット募集!!



みなさんが撮影した棚田や作業風景の写真など、ベストショットをコメント(70文字程度)を添えて編集部まで送ってください。毎号、紹介させていただきます! 送り先は下記。

〒160-0023  
東京都新宿区西新宿7-18-16  
トーシンハイム704号  
「棚田に吹く風 ベストショット」宛  
メールでも受け付けています  
⇒ [hiroba@tanada.or.jp](mailto:hiroba@tanada.or.jp)



### 憧れの丸山千枚田

兵庫県明石市 坪井 智洋

四季折々、さまざまな顔を見せる棚田の魅力を多くの方々に広めていきたいですね。

援農・棚田保全等に取り組む学生交流会に参加して

東京都新宿区 三島 栞

和歌山県有田川町の古民家で11月15・16日に、援農・棚田保全等に取り組む学生による交流会が行われ、5大学15人の学生が集まった。学生間の連携や情報交換により視野を広めること、他地区の取り組みを参考とすることで、それぞれの地域での取り組みが活発化し、更なる地域活性化に寄与することが目的であった。

今回の出会いには私にとって一生モノの経験であった。和歌山、大阪、静岡、東京の4地域が集まり、まず同世代の子が話す方言に感動した。話している方言が羨ましくなるくらい、地域性の面白さや、その人の根本にある地元愛を感じた。

始めに各団体の紹介を行い、その後「ずっと地域と繋がりたい、もっと地域と輝きたい」というテーマのもと私たちが地域にできることや活動の維持に必要なことを話し合った。まず感じたのは、全国各地で学生による地域活性化の活動が沸々と湧き出ており活発化しているということだ。団体によって地域と関わるスタイルや内容は違う。援農作業やイベントの手伝い、実際に農家さんをまわり聞き取り調査を行っている団体まで様々であった。共通しているのは、地域を知り、学生の力で地域を盛り上げていきたいという思いだ。意見交換会では、農家さんによってOpen型とClose型があるという意見が出た。地域を活性化させるには、外向的、保守的…いろいろな農家さんの性格をまず知ること、学生という立場を活用して話を聞くことからでも何か生まれるのではないかと考えた。また各団体の問題点も共有でき、援農をしているようで実は援農させてもらっている感じがあつたこと、団体が大きくなるにつれてその中の温度差が生まれるということなどが出てきた。

私は去年、棚田サークルを作った。人数も少なく活動もまだまだこれからだが、横の繋がりをもてたことで互いに高め合える良い刺激となり、全国に視野を広げられた。地域活性化とは何か、学生が今求められていることは何か、を考えることに繋がった一生モノの交流会、企画していただいた皆様に感謝いたします。



編集部イチオシ! BOOK & MOVIE



かぐや姫の物語

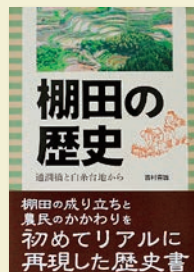


2013/日本  
監督・原案・脚本：  
高畑勲  
原作：「竹取物語」  
脚本：坂口理子  
音楽：久石譲  
制作：スタジオジブリ  
Blu-ray Disc  
¥6,800 (税抜)  
DVD ¥4,700 (税抜)  
〔速報!〕第87回アカ  
デミー賞長編アニメー  
ション賞部門ノミネート!

古典「竹取物語」を、スタジオジブリの高畑勲監督が8年の時を費やしアニメーション映画化。鳥獣戯画のような粗筆のタッチが優しく、背景も絵巻のようになると変わり、文字通り映像に魅せられます。和楽器を取り入れた音楽も非常に心地良く、中でも姫が天へと上っていく印象的なシーンのであえての場違いな音楽は必聴です。また、姫が老夫婦と幼き日々を過ごす村には棚田をはじめとした伝統的な日本の里山風景が。姫がああ場所へ帰りたいと願う重要なシーンでも、幾度となく棚田が映されているのにも注目です。



棚田の歴史



熊本大学・文学部教授  
吉村 豊雄(著)

¥3,000(税別)  
農山漁村文化協会  
2014年2月

本書は、棚田の由来や歴史的推移・農民の暮らしについて、熊本県・山都町の白糸台地と通潤橋に焦点を当てながら考察している。白糸台地の棚田は、幕末の大規模灌漑施設「通潤橋」によりもたらされたと思われがちであるが、実は弥生時代に遡り台地の谷筋では湧水を利用した「古田」と呼ばれる水田で宮々々と稲作が続けられてきた。これらは「小畝町」と呼ばれる量2枚程の極小水田で構成され、現地ではセマチに今も「狭町」の字を当てているそう。読み進むと、これらの記述に吸い込まれるように実に興味深い内容の書籍である。

## 東北初、山形県上山市で 第20回棚田サミット

2014年10月23日～24日 報告 高野 光世

棚田サミット参加も20回目。初日の基調講演は民俗研究家の結城登美雄さん。日本の食を支えている農家は人口割合にすればわずか2%だという話が衝撃でした。現地見学会は小倉の棚田コースへ。整備された見事な棚田や水路を散策し、玉こんにゃくやお茶などの温かいもてなしを受けました。

翌日の「棚田保存会意見交換会」では、各地の保存会代表が4つのグループに分かれてワークショップ。意欲的な企画でしたが、時間が限られじっくり討論できなかったのが残念です。次回に期待します。



## 丸の内さえずり館ネイチャーセミナー 「旧暦のリズムで棚田を味わう」

2014年11月7日 報告 高桑 智雄

「旧暦棚田ごよみ」の発売を記念してイベントを開催しました。残念ながら2014年をもって閉館が決まった「丸の内・さえずり館」での最後のイベントです。写真家・青柳健二さんによる二十四節気の解説にあわせた美しい棚田の紹介と今年から体験田に決まった千葉県鴨川市川代棚田の新米コシヒカリを25名の参加者が楽しみました。10年近く活用させていただいた「さえずり館」、長い間ありがとうございました！



## 棚田ネットワークの かつどうノート



このコーナーでは、棚田ネットワークのスタッフの活動や事務局のことなどを幅広くお伝えしていきます。

ジャーネーの法則というのがあるそうだ。歳をとると一年が短く感じられることについて、心理学の立場から説明したものだという。曰く、50歳の人間にとって一年間は人生の50分の一だけれど、5歳の子どもにとっては人生の5分の一。つまり10倍の違いがある。加齢につれて「光陰矢のごとし」というわけだ。内容は知っていたけれど、ジャーネーの法則というのね。ふ〜ん。

それとは別の側面で、「同じことの繰り返しだと短く感じ、新しいことをしていると長く感じる」というのもあると思う。例えば同じパターンの繰り返しが多い職場の一年はアツという間。ところが、例えば海外赴任なんかで知らない国へ行って生活したら、全く違うと思う。私も初めての大陸行でインドに旅立ったときの最初の1カ月といたら、とても長く長かった。3月15日に出発し、タイで1週間過ごし、インドに着いてしばらくして「まだ1カ月ちょっとしか経っていないんだ！」と愕然とした。毎日日々、見聞きし体験するのは新しい事象ばかり。あと一年以上こういう日々が続くのかと思うと「何だかしんどいなあ…」と感じたのを覚えている。これは誰かが法則として名前を付けているかな？

さて、棚田ネットワークは今年（2015年）の12月で20周年。長かったか、それともアツという間だったか。う〜ん。個人的にはそれより更に前の1996年から考えてしまふ。なぜって、私は全共闘世代（団塊世代とも言う）で、今もあの頃の延長線上で生きているから。世の中を変えたいと思った。社会に働きかけたいと思った。そして、大挫折した私を救ってくれたのが棚田だった。今もその続きなのです。でも、まだ何ほどのこともできていない、というのが実感。つまり「振り返るのはまだ早い」ってことかな？

## スタッフの つ・ぶ・や・き ＜輪番制＞



今回のつぶやき人

事務局  
畦野花世

## 千葉県鴨川市

### 川代棚田でお米づくり

川代棚田を訪問  
今年から体験フィールドに！



川代集落は都心からアクアライン経由の車で2時間ほど。安房鴨川駅までは東京駅八重洲口からも高速バス・アクシー号が運行されており比較的アクセスの良い棚田です。私たち4人を出迎えてくれたのは川代集落代表の庄司さん。昼食後さっそく棚田へ。目指す棚田は集落の中心から10分ほどの小高い丘陵地で緩やかな斜面に広がっています。公民館もすぐ近くで、こちらで話を伺いました。ここ川代の棚田は嶺岡山系の蛇紋岩質の粘土を含むため、昔から長狭米と言われる美味しいお米が穫れることで知られています。はるかに青い海や鴨川温泉の高層ホテルも望める棚田は開放感に溢れ体験フィールドとして最適です。春からの米づくり体験について相談したところ快く引き受けていただきました。田植え等の新しいフィールドとして皆様に別途ご案内予定です。  
(杉山行男・上久保 郁夫)

## 岐阜県恵那市

### 棚田ビオトープ プロジェクト

今年もやります！「かえるの卵を探そう！」



稲刈りも9月23日(火祝)に終わり、棚田での作業もひと段落です。棚田ビオトープ活動とは少し離れますが、10月31日(金)から11月1日(土)までの2日間、坂折棚田で「石積み塾」が開催され、1日だけ参加しました。崩れたり、ほらんどりしている棚田を、棚田の石積みに関心のある市民とともに修復するこの活動は、いつか棚田ビオトープの石垣が崩れた時に役に立つかもしれません。

さて、棚田ビオトープを含む坂折棚田で、春の水溜りに卵を産むヤマアカガエルの卵塊を探す「第8回かえるの卵を探そう！」は3月21日(土祝)10時から12時まで開催予定です。天候などにより延期することもありますので、必ず連絡の上、ご参加よろしくお願いします。

(相田 明)

## 静岡県松崎町

### 昔ながらの米づくりプロジェクト

おいしいお米できました！



2014年の石部棚田での「昔ながらのお米作り体験」も11月9日の「新米を食べる会」をもって無事全過程終了しました。今年から「きぬむすめ」という品種に変わったことや畦を半分まで切って田んぼ面積を少し広げたのが良かったのか、今年は139kgのお米ができ、前年より14kg程度アップしました。「新米を食べる会」では、地元ゲストを含め17名の参加者が棚田の交流棟に集まり、出来立ての新米を味わいました。お米の出来はとも良く、参加者の「おいしい!!」も続出、出始めの生シタケなど、地元の方からの差し入れも届き、とても充実したイベントとなりました！今年ももちろん継続して、お米作りを行います。夏合宿や石積みの修復をしたいなど、新たな試みを視野に入れつつ、より充実した企画にして行きたいと思いますので、ぜひご参加お待ちしております。  
(高桑 智雄)



旅と自然は、もっと仲良くなれる——

# まもろう、つくろう、つたえよう にっぽんの美しい風景

どこまでも青く透き通った海、白い砂浜。心身を癒してくれる川のせせらぎとオゾンに包まれた滝。鮮やかな紅葉天然林、鎮守の森、蛍のせせらぎ、棚田、美田、茅葺きの古民家、歴史的な街並み、伝統文化。そして、汚れない天水の恵みを受けて育った、たわやかな稲穂。日本の原風景は、失ってはならない観光資源です。これらの資源保全の具体的な支援と環境エコツアーを推進します。



平成26年9月27日 恵那市坂折棚田稲刈り風景



**クラブツーリズム株式会社 パートナーズ会**  
〒160-8308 東京都新宿区西新宿6-3-1 新宿アイランドウイング  
観光庁長官登録旅行業第1693号 JATA正会員 旅行業公正取引協議会会員

クラブツーリズム株式会社と  
連携した棚田の観光振興のご相談は、  
パートナーズ会事務局まで  
担当：吉住 ☎03-5323-6965



## わたしたちと「棚田の応援団」やりませんか！

棚田ネットワークは「棚田の保全に協力したい!」という会員によって自主的に運営されているNPOです。消えゆく美しい「棚田」をどのように保全していくことができるのでしょうか?一緒に考えませんか?ぜひ、私たちと棚田の応援団になりましょう!

会報誌「棚田に吹く風」(年4回)やイベント案内お届けの他、棚田ネットワークが主催する各プロジェクト(イベント)への参加や、スタッフとしての活動もできます。

| 年会費 | 個人会員             |
|-----|------------------|
|     | 維持会員 1口1万円(1口以上) |
|     | 一般会員 4,000円      |
|     | 応援会員 3,000円      |
|     | 学生会員 2,000円      |

### 法人会員を募集しています!

私たちの活動にご支援・ご協力をいただける、企業、団体、事業主さまを募集しています。詳細はお問い合わせください。

年会費 ○法人会員  
1口3万円(1口以上)

この上のスペース(ページ上1/2サイズ)は法人会員さまのPRスペースとして広告や広報にご利用いただけます。(詳細はお問い合わせください)

昨年秋に食べた新米は、8地域、6品種にもなりました。山形県四ヶ村棚田の里のゆき、同村山市中沢棚田のササニシキ、千葉県鴨川市川代棚田、新潟県十日町市星峠、長野県松川村西原棚田のこしひかり、静岡県松崎町石部棚田のきぬむすめ、岐阜県恵那市坂折棚田のミネアサヒ、大分県別府市内成棚田のヒノヒカリ。棚田に関わっているとたくさんの珍しい品種に出会える。コシヒカリは、確かに美味しいお米です。でもいろいろな個性豊かなお米が味わえるのが日本の米文化の深みだと思えます。棚田という小さな商店が、日本列島という商店街に所せましと軒を連ねる。そんな日本の秋であって欲しいのです。

編集部から

## ホームページのぞきを見て!

棚田ネットのWebサイト  
イベント情報、ブログ等  
随時更新中!!



<http://www.tanada.or.jp>



2015年 冬号 Vol.95

発行 NPO法人 棚田ネットワーク

〒160-0023  
東京都新宿区西新宿 7-18-16 トーシンハイム 704 号  
Tel / Fax 03-5386-4001  
e-mail : info@tanada.or.jp URL : www.tanada.or.jp  
郵便振替口座 : 00100-7-151565